

【表紙】

| | |
|------------|--------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 2022年8月9日 |
| 【四半期会計期間】 | 第118期第1四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日） |
| 【会社名】 | 日本製罐株式会社 |
| 【英訳名】 | NIHON SEIKAN K.K. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 松田 豊彦 |
| 【本店の所在の場所】 | 埼玉県さいたま市北区吉野町2丁目275番地 |
| 【電話番号】 | (048) 665 - 1251 代表 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役経理部長 田中 修二 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 埼玉県さいたま市北区吉野町2丁目275番地 |
| 【電話番号】 | (048) 665 - 1251 代表 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役経理部長 田中 修二 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第117期 第1四半期連結 累計期間 | 第118期 第1四半期連結 累計期間 | 第117期 |
|----------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 会計期間 | 自2021年4月1日 至2021年6月30日 | 自2022年4月1日 至2022年6月30日 | 自2021年4月1日 至2022年3月31日 |
| 売上高 (千円) | 2,736,600 | 2,695,134 | 10,472,199 |
| 経常利益 (千円) | 150,920 | 47,122 | 220,889 |
| 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円) | 94,962 | 31,013 | 236,572 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 45,621 | 53,181 | 389,437 |
| 純資産額 (千円) | 6,093,594 | 5,629,007 | 5,745,279 |
| 総資産額 (千円) | 14,310,817 | 13,765,791 | 13,619,035 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 70.10 | 22.95 | 174.63 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 68.48 | 22.63 | 170.68 |
| 自己資本比率 (%) | 36.6 | 34.7 | 35.8 |

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、感染対策と経済活動の正常化が進む中、各種政策の効果もあり持ち直しの動きがみられてきております。

当社グループの主力品種である18L缶は、油糧向けにつきましては好調に推移しましたが、化学向けが減少し、当第1四半期は前年対比で売上高1.9%増加しております。一方、美術缶につきましては、昨年までの巣籠需要の影響も終わり、当第1四半期は前年対比で売上高11.1%減少しております。

一方、鋼材やエネルギーコスト上昇の客先への転嫁には時間差が発生しております。

このような中、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、2,695百万円（前年同期比1.5%減）、営業利益は32百万円（前年同期比70.4%減）、経常利益は47百万円（前年同期比68.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は31百万円（前年同期比67.3%減）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

金属缶製造販売事業

製品別売上高

（単位：百万円、%）

| | 前年同四半期 | | 当第1四半期 | | 前年同四半期比 | |
|------|--------|-------|--------|-------|---------|------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 増減比 |
| 18L缶 | 1,733 | 64.3 | 1,767 | 66.5 | 33 | 1.9 |
| 美術缶 | 789 | 29.3 | 701 | 26.4 | 87 | 11.1 |
| その他 | 172 | 6.4 | 187 | 7.1 | 14 | 8.7 |
| 計 | 2,695 | 100.0 | 2,655 | 100.0 | 39 | 1.5 |

金属缶製造販売事業の売上高は2,655百万円（前年同期比1.5%減）、営業利益は11百万円（前年同期比86.3%減）となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業の売上高は39百万円（前年同期比4.2%減）、営業利益は20百万円（前年同期比8.4%減）となりました。

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は6,342百万円となり、前連結会計年度末に比べ282百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が115百万円、受取手形及び売掛金が119百万円、電子記録債権が15百万円、原材料及び貯蔵品が58百万円増加し、その他（主に未収消費税）33百万円減少したことによるものであります。固定資産は7,422百万円となり、前連結会計年度末に比べ135百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産が156百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は13,765百万円となり、前連結会計年度末に比べ146百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は4,933百万円となり、前連結会計年度末に比べ196百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が93百万円、1年内返済予定の長期借入金が45百万円、賞与引当金が36百万円、設備関係支払手形が26百万円増加したことによるものであります。固定負債は3,203百万円となり、前連結会計年度末に比べ66百万円増加いたしました。これは主に長期借入金114百万円増加し、繰延税金負債が46百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は8,136百万円となり、前連結会計年度末に比べ263百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は5,629百万円となり、前連結会計年度末に比べ116百万円減少いたしました。これは主にその他有価証券評価差額金が86百万円減少したこと、親会社株主に帰属する四半期純利益31百万円及び剰余金の配当67百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は34.7%（前連結会計年度末は35.8%）となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因

需要動向

当社グループを取り巻く事業環境は、短期的には新型コロナウイルス感染症への対策と経済活動の正常化が進む中、各種政策の効果もあり持ち直しの動きがみられてきております。一方で、新型コロナウイルス感染症第7波の経済に対する影響が懸念されます。

中長期的には、少子高齢化、容器素材の多様化による金属缶の需要減少に直面しております。係る状況下、鉄鋼メーカーと一体となって、地球にやさしいLCAの優位性のある容器であるということをお客様に積極的にアピールを行い、微力ではありますが持続可能な社会構築の一助になるべく取り組んでまいります。

コストアップの要因

主原料である鉄鋼薄板価格の更なる上昇、人手不足による人件費増、エネルギーコストの上昇、深刻な運転手不足による輸送費の増加等のコストアップ等が、今期も収益の圧迫要因となっております。

また、ウクライナ問題に端を発した諸原材料やエネルギーコストの高騰が直接的に収益を圧迫するだけでなく、需要自体を冷やすのではないかと懸念されます。

当社グループといたしましては、引続き稼働率向上、歩留り改善による生産効率改善と輸送効率改善に努めるとともに、お客様にコストアップの状況を丁寧に説明し続けてまいります。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 4,900,000 |
| 計 | 4,900,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (2022年8月9日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------|------------------------------------|---------------|
| 普通株式 | 1,392,000 | 1,392,000 | 東京証券取引所 スタンダード市場 | 単元株式数 100株 |
| 計 | 1,392,000 | 1,392,000 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数(株) | 発行済株式 総数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額(千円) | 資本準備金 残高(千円) |
|--------------------------|-------------------|------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 2022年4月1日～ 2022年6月30日 | - | 1,392,000 | - | 738,599 | - | 245,373 |

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 45,300 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 1,341,600 | 13,416 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 5,100 | - | - |
| 発行済株式総数 | 1,392,000 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 13,416 | - |

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

2022年6月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有 株式数(株) | 他人名義所有 株式数(株) | 所有株式数の 合計(株) | 発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%) |
|------------|--------------------------|------------------|------------------|-----------------|--------------------------------|
| 日本製罐株式会社 | 埼玉県さいたま市 北区吉野町2 - 275 | 45,300 | - | 45,300 | 3.26 |
| 計 | - | 45,300 | - | 45,300 | 3.26 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、Mooreみらい監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、従来より当社が監査証明を受けているきさらぎ監査法人は、2022年7月1日付でMoore至誠監査法人と合併し、Mooreみらい監査法人に名称を変更しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日) |
|-------------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 721,318 | 837,031 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,130,167 | 2,249,187 |
| 電子記録債権 | 1,952,538 | 1,967,995 |
| 商品及び製品 | 153,168 | 152,093 |
| 仕掛品 | 125,035 | 133,384 |
| 原材料及び貯蔵品 | 899,746 | 958,119 |
| その他 | 79,151 | 45,617 |
| 貸倒引当金 | 453 | 463 |
| 流動資産合計 | 6,060,672 | 6,342,965 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 7,575,022 | 7,580,749 |
| 減価償却累計額 | 5,349,171 | 5,387,826 |
| 建物及び構築物(純額) | 2,225,850 | 2,192,922 |
| 機械及び装置 | 8,513,922 | 8,779,626 |
| 減価償却累計額 | 7,537,610 | 7,602,158 |
| 機械及び装置(純額) | 976,312 | 1,177,468 |
| 車両運搬具 | 35,958 | 35,958 |
| 減価償却累計額 | 35,958 | 35,958 |
| 車両運搬具(純額) | 0 | 0 |
| 工具、器具及び備品 | 687,940 | 690,498 |
| 減価償却累計額 | 649,357 | 653,730 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 38,583 | 36,768 |
| 土地 | 972,170 | 972,170 |
| リース資産 | 17,446 | 17,446 |
| 減価償却累計額 | 6,687 | 7,560 |
| リース資産(純額) | 10,758 | 9,886 |
| 建設仮勘定 | 218,955 | 41,348 |
| 有形固定資産合計 | 4,442,631 | 4,430,565 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 132,163 | 119,831 |
| ソフトウェア仮勘定 | 85,780 | 131,380 |
| リース資産 | 2,569 | 2,360 |
| その他 | 1,923 | 1,923 |
| 無形固定資産合計 | 222,436 | 255,496 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,857,470 | 2,706,737 |
| 破産更生債権等 | 26,770 | 30,052 |
| その他 | 18,580 | 17,026 |
| 貸倒引当金 | 9,525 | 17,052 |
| 投資その他の資産合計 | 2,893,295 | 2,736,764 |
| 固定資産合計 | 7,558,362 | 7,422,826 |
| 資産合計 | 13,619,035 | 13,765,791 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 3,171,773 | 3,265,297 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 907,108 | 952,629 |
| リース債務 | 4,754 | 4,754 |
| 未払法人税等 | 27,808 | 23,354 |
| 未払事業所税 | 21,219 | 5,290 |
| 賞与引当金 | 95,056 | 131,802 |
| 設備関係支払手形 | 147,243 | 173,313 |
| その他 | 361,624 | 376,952 |
| 流動負債合計 | 4,736,587 | 4,933,394 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,964,842 | 2,078,958 |
| リース債務 | 9,905 | 8,717 |
| 繰延税金負債 | 867,872 | 820,912 |
| 役員退職慰労引当金 | 11,682 | - |
| 退職給付に係る負債 | 219,948 | 234,754 |
| 資産除去債務 | 19,254 | 19,254 |
| その他 | 43,663 | 40,793 |
| 固定負債合計 | 3,137,168 | 3,203,389 |
| 負債合計 | 7,873,755 | 8,136,784 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 738,599 | 738,599 |
| 資本剰余金 | 245,373 | 245,373 |
| 利益剰余金 | 2,281,650 | 2,243,036 |
| 自己株式 | 51,865 | 29,672 |
| 株主資本合計 | 3,213,756 | 3,197,336 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,662,567 | 1,576,103 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,662,567 | 1,576,103 |
| 新株予約権 | 34,256 | 18,600 |
| 非支配株主持分 | 834,699 | 836,967 |
| 純資産合計 | 5,745,279 | 5,629,007 |
| 負債純資産合計 | 13,619,035 | 13,765,791 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 2,736,600 | 2,695,134 |
| 売上原価 | 2,288,519 | 2,315,296 |
| 売上総利益 | 448,080 | 379,838 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 従業員給料及び手当 | 71,542 | 69,946 |
| 役員報酬 | 23,284 | 35,848 |
| 株式報酬費用 | 2,416 | 4,224 |
| 賞与引当金繰入額 | 9,542 | 9,304 |
| 退職給付費用 | 8,086 | 6,407 |
| 運賃及び荷造費 | 122,687 | 124,256 |
| 支払手数料 | 29,426 | 27,631 |
| 減価償却費 | 18,105 | 17,187 |
| のれん償却額 | 993 | - |
| その他 | 53,104 | 52,827 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 339,191 | 347,633 |
| 営業利益 | 108,889 | 32,205 |
| 営業外収益 | | |
| 受取配当金 | 40,896 | 20,924 |
| 雇用調整助成金 | 22,905 | 2,637 |
| その他 | 7,154 | 8,284 |
| 営業外収益合計 | 70,956 | 31,845 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 3,836 | 3,577 |
| 貸倒引当金繰入額 | - | 7,527 |
| 休業手当 | 24,975 | 4,390 |
| その他 | 112 | 1,433 |
| 営業外費用合計 | 28,924 | 16,928 |
| 経常利益 | 150,920 | 47,122 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 6,412 | 12,360 |
| 特別利益合計 | 6,412 | 12,360 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | - | 0 |
| 特別損失合計 | - | 0 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 157,333 | 59,482 |
| 法人税等 | 49,801 | 19,668 |
| 四半期純利益 | 107,531 | 39,814 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 12,569 | 8,800 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 94,962 | 31,013 |

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 107,531 | 39,814 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 153,152 | 92,996 |
| その他の包括利益合計 | 153,152 | 92,996 |
| 四半期包括利益 | 45,621 | 53,181 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 54,537 | 55,449 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 8,915 | 2,268 |

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日) |
|------------|-------------------------|------------------------------|
| 当座貸越極度額の総額 | 1,200,000千円 | 1,200,000千円 |
| 借入実行残高 | - | - |
| 差引額 | 1,200,000 | 1,200,000 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) |
|---------|---|---|
| 減価償却費 | 116,287千円 | 121,593千円 |
| のれんの償却額 | 993 | - |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2021年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 67,624 | 50.00 | 2021年3月31日 | 2021年6月30日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2022年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 67,333 | 50.00 | 2022年3月31日 | 2022年6月30日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 四半期連結損益計算書計上額 |
|-------------------|-----------|---------|-----------|-----|---------------|
| | 金属缶製造販売事業 | 不動産賃貸事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 18L缶 | 1,733,924 | - | 1,733,924 | - | 1,733,924 |
| 美術缶 | 789,255 | - | 789,255 | - | 789,255 |
| その他 | 172,228 | - | 172,228 | - | 172,228 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 2,695,408 | - | 2,695,408 | - | 2,695,408 |
| その他の収益 | - | 41,191 | 41,191 | - | 41,191 |
| 外部顧客への売上高 | 2,695,408 | 41,191 | 2,736,600 | - | 2,736,600 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | - | - | - | - | - |
| 計 | 2,695,408 | 41,191 | 2,736,600 | - | 2,736,600 |
| セグメント利益 | 86,706 | 22,182 | 108,889 | - | 108,889 |

(注)セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

また、「その他の収益」は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入です

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 四半期連結損益計算書計上額 |
|-------------------|-----------|---------|-----------|-----|---------------|
| | 金属缶製造販売事業 | 不動産賃貸事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 18L缶 | 1,767,156 | - | 1,767,156 | - | 1,767,156 |
| 美術缶 | 701,374 | - | 701,374 | - | 701,374 |
| その他 | 187,157 | - | 187,157 | - | 187,157 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 2,655,689 | - | 2,655,689 | - | 2,655,689 |
| その他の収益 | - | 39,445 | 39,445 | - | 39,445 |
| 外部顧客への売上高 | 2,655,689 | 39,445 | 2,695,134 | - | 2,695,134 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | - | - | - | - | - |
| 計 | 2,655,689 | 39,445 | 2,695,134 | - | 2,695,134 |
| セグメント利益 | 11,885 | 20,319 | 32,205 | - | 32,205 |

(注)セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

また、「その他の収益」は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入です

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) |
|---------------------------------|---|---|
| (1) 1株当たり四半期純利益 | 70円10銭 | 22円95銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円) | 94,962 | 31,013 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益(千円) | 94,962 | 31,013 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 1,354,721 | 1,351,515 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 | 68.48 | 22.63 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円) | - | - |
| 普通株式増加数(株) | 32,070 | 18,879 |

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年8月8日

日本製罐株式会社

取締役会 御中

Moore みらい監査法人

東京都千代田区

指 定 社 員 公認会計士 鶴 田 慎之介
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 安 田 雄 一
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本製罐株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本製罐株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人

の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。